

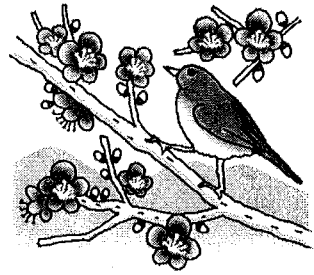
今の所 何にも 戻く あ、か、い、う、の、感、謝、感、謝、です。

幸せ運が、アホ一鳥

二月のテーマ

病気の活用

立ち止まり 振り返る契機に



え・たむらかづみ

ある地方で五軒のクリーニン
グ店を営むYさんは、子供

の頃から、「健康であること」が何
よりの自慢でした。滅多に風邪も
ひきません。

そんなYさんも、年齢を重ねて、
疲れを感じるようになってしまし
た。特別にどこか具合が悪いとい
う自覚はなかったのですが、妻の
勧めもあり、初めて人間ドックを
受診することになりました。五十
五歳の誕生日でした。

「何か見つかるかな…」という
一抹の不安がよぎったYさん。そ
の予感的中しました。胃に、ポ
リープが三つ見つかったのです。
医師からは、「癌の可能性もあるの
で、念のため切除して、調べてみ
ましょう」と言われました。

翌週、内視鏡手術でポリープを
切除。検査の結果、やはり癌とい
う診断でした。幸い早期に切除で
きたため転移はなく、経過観察を
することになりました。

この結果は、Yさんにとってシ
ョックでした。健康への自信が、
癌という言葉聞いて、ガラガラ

と崩れていったのです。

不安を覚えたYさんは、倫理法
人会の講師に、倫理指導を受ける
ことになりました。じつと話を聞
いていた講師は、Yさんにこのよ
うに告げました。

「Yさん、モーニングセミナーで
読む『万人幸福の契』には、病氣
は生活の赤信号」とありますね。
いったん立ち止まって、今までの
仕事や人間関係、家族のことなど
生活全般を振り返りながら、誤り
を正して先に進むことです。何が
思い当たることはありますか」

その言葉に、Yさんはハッと
しました。これまで健康が自慢でも、
健康であることに感謝したことは
ありませんでした。また、仕事仕
事でガムシヤラに突き進んできた
Yさんを支え、食事面でも気を配
ってくれていた妻の健康を気遣う、
余裕もなく、店が忙しいことを理
由に、子供たちを旅行に連れてい
ったことも皆無でした。そして、
一所懸命働いてくれている従業員
にも、感謝の言葉一つかけたこと
がなかったのです。

「どうやら私は、いろいろなこと
に感謝を忘れていたようです。こ
れでは病気になるのは当たり前で
すね。でも、今が良くしていくチ
ヤンスなのですね。まず、家族に
感謝を伝えることから始めます」
と、実践を誓ったYさん。自宅に
戻ると、早速妻に、これまでのお
詫びと、支えてくれたことへのお
礼を告げました。子供たちにも「今
までありがとう」と伝えました。
皆キョトンとしていましたが、そ
の後の笑顔に、嬉しさが表われて
いるようでした。

それから五年が経過しましたが、
再発も転移もなく、医師からは「も
う大丈夫でしょう」というお墨付
きをもらいました。今は、健康に
育ててくれた両親に感謝し、家族
や従業員には、折々に言葉で感謝
を伝えているYさんです。
身に降りかかった苦難には必ず
意味があります。「この苦難は自分
に何を教えてくれているのか」と
謙虚に受け止め、実践を通して、
より良い人生を過ごすための糧と
していききたいものです。